

令和４年度第２回半田市スポーツ推進審議会議事要旨

開催日時	令和４年１１月３０日（水）	１５時 ～ １６時１０分
開催場所	市役所４階 会議室４０３	
会議次第	１．開会 ２．中学校部活動の地域移行について 資料１－１ 、 資料１－２ ３．半田市制８５周年記念はんだシティマラソン２０２２の結果について 資料２ ４．閉会	
出席委員 (欠席委員) ※敬称略	【会長】加藤博吏 【副会長】田中益生 【委員】池田智美、日置さと子、渡邊彩、近藤和昭、岩田洋子、 磯貝雅代、水野明英、清水純一、村松秀樹、（田村悦子）	
事務局	教育部長、スポーツ課長、スポーツ課主幹 スポーツ課振興担当主査、学校教育課指導主事	
次 第	議事概要	
【議題】（１） 中学校部活動 の地域移行につ いて	（事務局） <u>中学校部活動の地域移行について、資料１－１、資料１－２にも</u> <u>とづいて説明</u> <u>資料１－１について、</u> 休日の中学校部活動が学校より切り離された時のイメージ（案）を委員の皆様と共有させていただければと思います。 ・「部活動」が「地域での部活動」になるわけではない。 ⇒あくまで休日に地域で行うスポーツ活動になる。 ・中学生に時間や選択肢が与えられる。 ・スポーツをしたい中学生が自主的に選択していく社会になる。 ・スポーツ関係団体はスポーツ活動場所として選ばれる立場になる。 ・スポーツ関係団体は会員獲得等における改革の機会となる。 というような環境ができていくのではないかと想定しています。また、この部	

活動改革をきっかけに違う種目を別の地域で行う生徒もいれば、民間スポーツクラブに通う生徒もいると思います。または休日については、趣味の時間に充てることや家族と過ごす時間に充てる等選択する生徒もいるのではないのでしょうか。地域で行うスポーツ活動の形態としては、既存の活動状況下でも中学生の受入が可能なところもあれば、新規指導者の採用や新規チームの立ち上げ等によって対応が必要となってくるケースもあるかと思います。また、期間限定のスポット的なスポーツ教室等も選択肢の一つとなり、指導者を必要としない場所のみの提供も地域でのスポーツ活動の受入れ先として機能するのではないかと考えています。前述を踏まえまして、会員の増加や市等の支援により、スポーツ関係団体の運営レベルの向上も見込めるのではないかという期待もしています。

資料 1 - 2 については、スポーツ活動団体（総合型地域スポーツクラブ、スポーツ協会等）にアンケート調査のご協力をお願いしたいものになります。内容は「各団体における中学生の受入が可能な種目等の整理」及び「各団体におけるスポーツ指導者のニーズの把握」を行い、各地区のスポーツ活動ができる環境の広報やスポーツ関係団体向けの支援等の参考にしたいと考えています。

（質問・意見）

（加藤会長）

何か質問、意見ございましたら挙手をお願いします。

（近藤委員）

学校として休日の部活動を行わないのであれば、自由に活動する生徒が増えてくると思います。そうなった場合に、活動の場として施設等のキャパシティが心配です。

（加藤会長）

中学生が部活動で教員からスポーツのことだけでなく、様々な指導を受けていた部分もあると思います。そういった指導がなくなっていくことで子どもの健全育成にどう影響してくるかは懸念しなければならないところかもしれません。

(水野委員)

アンケート等実施しながら半田市としての計画を検討していくところだと思いますが、現実的には実施していきながら、都度対応していくようなスタイルになると思います。国としてもこの形にしていくという背景があるので、やってみないと分からない部分もありますが、やるべきものだとは認識しています。また、活動場所については、どの施設も取り合いの状況が窺えます。例えば、学校の教室等を開放することで習字等を行うことができるのではないのでしょうか。ただ、そこで誰が見守るかということも課題になるかもしれません。

(事務局)

現在、各小中学校の体育施設をお借りして、地域スポーツ活動の振興として総合型地域スポーツクラブに利用していただいておりますが、学校によっては予約の空き状況が多いところと少ないところがあります。利用頻度の少ない施設については、有効活用できるように整理していきたいと思っています。

(渡邊委員)

前回の審議会でも話題になりました小学校高学年から中学生対象のアンケートを実施されたときに、保護者の立場として回答する場面がありました。この中学校部活動の地域移行については、保護者間ではまだまだ情報が浸透していないように感じました。また、指導者は確保できおりチームとしては中学生を受け入れたいのですが、場所がなくて受入れができないという状況があります。

(事務局)

今後実施予定のスポーツ団体向けのアンケートにおいて、各団体の状況も拾い上げることができればと考えています。

(渡邊委員)

スポーツ団体向けのアンケートについて、回答することが難しいチームも出てくると思います。こういった形であれば、中学生の受入れが可能かというようなスタイルで問いかけるのがいいかもしれません。

(事務局)

貴重なご意見ありがとうございます。

(池田委員)

半田市の方針として、保護者や市民へ伝えるスケジュールはどのようになっていますか。

(学校教育課指導主事)

前回の審議会において、学校教育課としての見解を示しました。基本方針として、令和6年度、遅くとも令和7年度から半田市の部活動ガイドラインを変更し、中学校部活動は平日のみとし、休日の部活動は実施しないことについては現在も変わりありません。保護者及び児童・生徒への周知については令和5年度4月の後半から5月にかけて各学校で部活動の入部に関する動きが始まりますので、その前には説明を各学校ができるようなスケジュールにしたいと考えています。大会の在り方やこういった受入れ先が必要かということ等、課題を整理したうえで説明を実施していかなければならないと認識しています。令和6年度から実施できる種目や学校から少しずつ部活動ガイドラインを変更していき、遅くとも令和7年度中にはすべての中学校で休日の部活動は実施しない予定です。年明けに各中学校で入学説明会を予定していますが、その中で部活動地域移行に関する話題が出るかもしれません。その時点では詳細を伝えることはできませんが、移行に向けて半田市では検討している旨を周知する予定です。

(岩田委員)

先ほど話題になりましたが、指導者がいても場所がない、場所があっても指導者がいない、という状況は不安に思います。子ども達がスポーツをやりたいというときに指導者がいない場合、どこへ頼ったらよいか示していただけるとよいと思います。指導者向けアンケートの中で、指導できる地区に関する項目があるかと思いますが、その中でどの地区でも指導できる指導者の把握もしていただけると、指導者不在という状況への対応ができると思います。指導者バンクみたいものがあるとよいですね。

(事務局長)

現時点で正確なことは申し上げられませんが、指導者向けアンケートの実施については、指導者バンクの構築へ繋がる可能性も秘めていると思います。他地区へ指導に出向く、各地から所定の会場に指導者を招く等地域の範囲に捕らわれず指導を行える環境は必要だと思います。また、施設の不足に関しては、活動場所を統合して施設を有効活用するという方法もあるかと思います。

(加藤会長)

半田市をひとつとして考える必要性はあるかと思います。中学校区を飛び越えて指導を行う等、それぞれの地区をカバーしていく体制は重要であり、更にそれをマネジメントしていく体制も必要になってくると思います。

(村松委員)

過去に半田市では、中学校区に5つの総合型地域スポーツクラブを立ち上げ、まずは小学校の部活動がなくなりました。小学校は非常に順調に進んできたのではないかと実感しています。現在の小中学生は以前に比べると過密スケジュールの中で生活しており、放課後に行う部活動を負担に思う生徒もいると思います。教員においても、部活動指導をやりたい人もいれば、経験がないためやりたくない人もいます。抜本的にこの改革を実施していくのであれば、地域のスポーツ団体がよりやりやすい状況に持っていくことや補助をする等必要だと思います。この前提がない中で、地域のスポーツ団体にお願いするような形に持続性は見込めないと思います。

(磯貝委員)

子ども達の行動範囲は限られるかと思うので、指導者が地区を飛び越えて指導を行うという環境の必要性は感じます。子ども達が地元で歩いて行くことができる場所でスポーツ活動ができる環境が望ましいと思います。

(清水委員)

地域の子供達を見ていると、休日の練習が終わった後に広場等でキ

ヤッチボールをしている光景があります。指導者がいなくても仲の良い子達のコミュニケーションの場として成り立っているのではないかと思います。また、この改革で休日が子ども達の息抜きの時間になるのもよいことではないかと思います。

(日置委員)

スポーツクラブ Y O U K I では、半田市と日本福祉大学の連携事業で大学生指導者派遣の支援を受けています。とても有意義な体験ができていますとクラブ内でも共有しています。こういった支援の継続はクラブの運営にとっても大変有意義だと思います。

(岩田委員)

半田地区スポーツクラブでも大学生指導者派遣の支援を受けています。子ども達と大学生との年齢が近いということもあり、コミュニケーションも円滑にとることができ、チームによい影響を与えています。こういった支援の継続はクラブにとっても有益だと思います。

(田中副会長)

部活動で教員に指導してもらうことが当たり前という現状ではありますが、いざ改革を行おうとすると課題が浮き彫りになってきます。本日の審議会でも改めて課題を認識することができました。当事者がどう思っているかというところが気になりますので、ニーズや意見等拾い上げることが大切であると思います。国の資料等を見ても、この令和5年度から令和7年度に行う移行については、新しいまちづくりを求められているように感じます。学校だけの改革で終わるのかそうではないのか、どう捉えていくか重要だと思います。

(学校教育課指導者主事)

児童・生徒や保護者に実施したアンケート結果について、報告します。教育委員会としてもホームページに児童・生徒や保護者向けのアンケート結果については公表していきたいと思っています。結果の内容ですが、児童・生徒向けに実施したアンケートの中で、中学校部活動が平日のみとなった場合に休日にスポーツ活動や文化活動に参加したいかという

	問に対しては、参加したい 5 割、参加したくない 5 割の回答でした。保護者側では、参加させたい 7 割、参加させたくない 3 割の回答であり、児童・生徒と保護者間で乖離がありました。次に、休日にどれくらいの頻度で活動したいかという問に対しては、児童・生徒では毎週 1 回程度が最も多く、保護者側でも同様の結果でした。また、1 回の活動時間については児童・生徒では 1 ～ 2 時間程度が最も多く、保護者側では半日程度が最も多い回答でした。続いて、児童・生徒が不安に思っていることの中で多かったのは活動場所のことでした。部活動では自分の地区の学校で行えたけれど、地域ではどうなるか不安に思っている人が多いようです。それから、保護者向けのアンケートで休日でのスポーツ活動や文化活動を行うにあたり、受益者負担になる場合、月額で許容できる範囲に関する問では、9 割もの保護者が受益者負担は必要であるという認識があることが分かりました。また、地域移行した際に保護者としてどう関わっていけばよいか不安に思う声が多いようです。この結果につきましては、教育委員会内及び関係団体の皆様と共有し、今後の部活動改革における体制づくりに生かしていきたいものと考えています。
【議題】 (2) その他 半田市制 85 周年記念はん だシティマラソン 2022 の結果について	(事務局) 半田市制 85 周年記念はんだシティマラソン 2022 の結果について、<u>資料 2</u>にもとづいて説明 <u>資料 2</u>について、報告事項になります。先日、11 月 6 日（日）に半田運動公園にて開催しました。皆様のお力添えに加え、晴天にも恵まれ、大きな事故等なく無事に開催することができました。ありがとうございました。午前のシリアスソロ、リレーマラソン部門では、393 名、午後のウォーキング部門では 180 名、総勢 573 名の参加がありました。また、ウォーキングと同時開催した、ニュースポーツ体験ができるスポリンピックでは 139 名の参加がありました。 コロナ禍の中、皆様のお知恵等いただきながら工夫した大会を開催することができたのではないかと感じました。今回の大会を検証し、次年度移行の開催方式についても、今後、しっかりと検討していきたいと思います。

【閉会】	(加藤会長) 本日も貴重なご意見ありがとうございました。次回のスポーツ推進審議会はいつ頃開催予定ですか。 (事務局) 次回は来年２月頃を予定しています。改めて開催の案内をしますので、よろしくお願いします。本日はありがとうございました。
	１６：１０（終了）